



水稻のカメムシ

被害にご注意ください



POINT

- イネカメムシ以外のカメムシは畦畔に生息しているため出穂2週間前までに草刈りを行いましょう。
- 出穂後以降に草刈りを行うとカメムシが水田に移動するので、出穂後は草刈りを行わないようにしましょう。
- 薬剤を散布し防除を徹底しましょう。



ホソハリカメムシ
体・脚ともに黄褐色、肩の部分がすどくとがっている。



クモヘリカメムシ
体・脚ともに緑色、羽は淡褐色、体は細長い。



カメムシに吸汁されて斑点米になった玄米
原図：茨城県農業総合センター農業研究所

薬剤散布について

薬剤防除は、出穂5～7日後に1回目の散布を行い、1回目の散布から10～14日後に追加散布しましょう。

種類	農薬名	散布量又は希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	
本田施用剤	殺虫剤	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
		スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで	
		スタークル粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	
		トレボン乳剤	2,000倍	収穫14日前まで	
		トレボン粉剤DL	3～4kg/10a	収穫7日前まで	

イネカメムシの発生

が近年、拡大傾向にあります。



イネカメムシ
黄褐色で背部に白色帯をもつ。やや細長い。
原図：茨城県農業総合センター農業研究所

- イネカメムシは他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期（出穂5～10日後）以降ではなく出穂期（穂が半分出た頃）に防除することが重要です。
- イネカメムシは他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂前に水田周辺の草を刈る対策で被害を防ぐのは難しくなっています。
- 水稻以外のイネ科雑草には寄生しづらいため特徴です。
- イネカメムシは、幼虫の加害能力も高いため、見逃さず確実に防除することが重要です。

農業者向けLINEにて
防除関連などの情報を配信しています！

LINEのお友だち登録はこちら！

病害虫防除は、発生前や発病初期の対応が大切です。組合員のみなさまが作られる作物を守るため、タイムリーな情報をお届けしますので、是非、お友だち登録をお願いいたします。

